

ぱれっと

2012
6月
No.154



P 2~3 **特集 | ボランティアの旗ふる若者たち**

— 復興TV & @plus —

P 4 **復興へのあゆみ** | 地域に根ざした息の長い支援を -カゴメ(株) 東日本大震災復興支援室-

P 5 **シニア横丁日記** | やると決めたからには とことん全力投球

— 子育て支援・一時預かり「わらべっこ」—

P 6 **市民活動サポートセンターからのお知らせ** | ロッカー・レターケース使用団体募集!
サポ本新着図書のお知らせ!

特集

ボランティアの旗ふる若者たち

復興TV

動画で伝え残す。若者と震災復興



復興TVは震災後、宮城県内で震災復興活動を行う若者たちの姿を映像というツールで全国に発信している学生団体です。今回は代表の小玉沙也加さん(写真中)、鈴木駿太さん(写真右)、小林茉莉花さん(写真左)にお話を伺いました。

**「復興のために何かしたい」
そんな若者の背中を後押しします。**

東日本大震災以降、学生たちの間で「何かボランティアをしたいけれど、何をすればよいか分からない」という声が多くありました。被災地の様子やボランティア活動、復興支援活動を行う団体などの情報が学生たちの間では少なく、ボランティアをしても、なかなか動き出しにくいという状況がありました。そこで2011年5月、復興TVはアクションを起こしたい学生たちの背中を押すような情報の発信を始めました。

ボランティアしたい人と復興支援団体をつなげること、また震災時にどのような支援が必要とされたのか、被災地で奮闘する若者を取材し記録に残すことが活動の狙いです。取材した動画はインターネット上にアップされ、全国に発信されています。

現在は、2012年1月に団体を立ち上げた大学4年生から引き継ぎを受け、3年生のメンバーが中心となって、活動を行っています。代表の小玉さんは活動への参加理由を「色々な価値観の人と出会えて、楽しそうだったので」とお話されます。仙台の震災復興の現場では、復興TVを始め、様々な大学から集まったメンバーで構成された学生団体が数多く活躍しています。

新たな出会いで高まる、復興への想い。

メンバーの皆さんは取材の他に、震災ボランティアが集まる様々なイベントにも積極的に参加し、情報収集をしています。2012年2月にサポートセンターで行われた、学生団体の情報交換会「フューチャー☆ナイト」にも参加してくださいました。そこでの新しい出会いから、若林区で農地の復興活動を行う団体「ReRoots」の取材を新たに行ったそうです。

取材をしていく中で「現場で頑張っている人と実際に話をすると自分の意識も高まるし、震災への関心もどんどん深まっていきます。自分も、地元をもっと大切にしなくちゃいけないと思うようになりました」と

岩沼市出身の鈴木さんは、ご自身の意識の変化を語ります。震災時、まだ高校生だった小林さんは「ボランティアに参加して、こんなに人との繋がりが生まれるとは思っていなかった。誰かの役に立ちたいという想いが、出会う人たちから伝わり、刺激されています。その繋がりを社会貢献に活かしたい」と意欲を燃やしています。

多くの人に動画を見てほしい。

最近では「復興TVの動画を見て、ボランティアや復興イベントに参加した!」という、嬉しい声が届いてきているそうです。「動画を見た人が刺激を受けて、その人がアクションを起こすきっかけになれば嬉しい」と代表の小玉さん。また、技術担当の鈴木さんは「動画のクオリティを上げることで、視聴者の層をもっと広げていきたい」とこれからの目標を語ります。

復興TVの動画は、「何かボランティアをしたいけれど、何をすればよいか分からない」という方々へのメッセージであると共に、復興支援団体にとっては社会に対して、活動への理解を深めてもらうための広報ツールになっています。震災から1年が過ぎ、支援の形も様々に変化しています。復興TVの皆さんは、これからも復興の状況を追いかけてながら、そこで奮闘する方々を応援する活動を続けていきます。

(松村翔子)

○団体情報○

復興TV

【団体からのメッセージ】メンバー募集中です。新しいことを始めたい方。少しでも興味をもたれた方。社会人メンバーもいます。ご連絡お願い致します。

○連絡先○

代表者：小玉沙也加

E-mail：kdmsyk2525@gmail.com

HP：<http://hukkoutv.blog.fc2.com/>

大学生にとってボランティアを身近なものに



@plusは学生が中心となって、ごみ拾いや献血の「ちょいボラ」から、お祭りなどのボランティアスタッフ、チャリティ活動などを行っています。今回は代表の井澤仁志さん(写真右)とスタッフの只野卓巳さん(写真左)に設立の経緯と震災以降の取り組みについてお話を伺いました。

ボランティア情報の発信活動から、現場で活動する団体へ

@plusは「大学生にとってボランティアを身近なものに」という理念のもと、2011年1月に仙台の大学生4人が立ち上げた学生団体です。「ボランティアしたいと思った時に情報を得る手段がなかったんです」と、代表の井澤さん。他にもこのような学生がいるのではないかと考えたことがきっかけでした。当初は学生のボランティア活動を推進するために情報提供を中心に行っていました。しかしアプローチ方法が難しいことや事務作業が多くなってきて活動を楽しめなくなってしまったことから、方向性を考え直していた矢先に東日本大震災は発生しました。

沿岸部を中心に壊滅的被害をもたらした東日本大震災。被災地の現状を知った@plusメンバー内でも、今は方向性の話し合いよりも直接現地に行ってボランティアしたいという思いに駆られた人が多く、泥かきなどの支援活動をしている団体に参加したそうです。そこでまだまだ学生の力が必要とされていることを思い知らされます。「私は当初、ボランティア推進にこだわりすぎていました。しかし今回、@plusのメンバー自身がボランティアに参加したことで、そこにやりがいを感じていたことに気づきました」と、井澤さん。これを機に@plusは、単に情報発信するだけでなく、直接現場に行ってボランティアする団体へと活動を発展させたのでした。

「震災復興×大学生の集い」

震災以降、@plusは被災地での泥かき等のボランティアを行う一方で、昨年6月と7月に震災復興に関心のある学生を対象とした「震災復興×大学生の集い」という意見交換会を企画しました。このイベントでは復興支援について考える場と、参加者同士の交流の場を提供し、被災地で支援活動している人をゲストに招いて現場の声を聞くことで、学生の意識向上を目指しました。3回の実施による総参加人数は約60名にもなっており、お互いに情報交換しながらつながりを深めることができたといいます。

@plusではこのイベントに参加していた復興支援団体「ReRoots」と「見守り隊」とのつながりから、昨年7月より両団体の活動に参加しています。たくさんの人たちとの出会いとつながりを大切にしながら、現在でも月1回のペースで被災地に赴き、震災ボランティアに励んでいます。

ボランティアをより身近なものにするために

@plusが目指しているのは、学生がボランティアをすることで社会と関わるきっかけを提供することです。「ボランティアは『人のため』と考えると重く感じますが、僕にとっては気軽にできるもの。やってみると楽しくて自分のためになりますし、そこに集まる人たちとの出会いも楽しみの一つです」と井澤さん。学生にとってボランティアがより身近になるように、打合せや活動は自由参加にするなど、学生が参加しやすいように工夫しています。

「1人が1年に1回ボランティアをすれば、365人で毎日どこかでボランティア活動が行われていることになります。小さな積み重ねが社会を変えていけると信じています」

ボランティアする楽しみを仲間と分かち合い、共感しながら、@plusはこれからも学生が気軽にボランティアできる場を提供していきます。

(西川日和)

○団体情報○

@plus(アプラス)

【団体からのメッセージ】運営スタッフは東北大学、東北学院大学、宮城大学、東北福祉大学、宮城教育大学、尚絅学院大学の学生24名によって構成されていて、この他にボランティアメンバーがいます。学校や学年に関わり無く参加してもらえればと思っておりますので、どうぞお気軽にお問合わせください。

○連絡先○

代表者 井澤仁志
 TEL 090-3360-7176
 E-mail aplus_volunteer@yahoo.co.jp
 HP <http://aplusvolunteer.web.fc2.com/top.html>

復興への
あゆみ

地域に根ざした息の長い支援を カゴメ（株）東日本大震災復興支援室



今なにが求められているのか

カゴメは、カルビー（株）、ロート製菓（株）と共に、公益財団法人「みちのく未来基金」を設立し、この震災で親を亡くした子どもたちの進学資金を支援する活動を、推し進めていました。これは、震災当時0歳の子どものが大学を卒業するまでを支援し続けるという活動で、今後20数年間は続けられるものです。

カゴメは私たちの食生活になじみ深い会社ですが、東日本各地にも工場や事業所、トマト産地を持っています。「みちのく未来基金」に加えて、もっと東日本のお客さまとの絆を深めるため、地域に根ざした長期的な支援はできないかと考えて、地元NPO等と連携するために、サポセンに相談に来館されたのです。

発災当初の緊急支援から、避難所や仮設住宅での支援と、被災地のニーズは刻々と変わっていました。その情報や地元NPO・市民団体の活動をより的確につかむためには、サポセンは絶好の情報収集の場でした。

トマトで笑顔と元気を届けたい

現在どのような支援が必要なのか、何回か相談、話し合いを重ねる中で、震災の被害が大きかった仙台市宮城野区の子どもたちや地域の方々に笑顔と元気を届けたいと、キッチンカーでのオムライス作りが提案されました。また、NPO法人20世紀アーカイブ仙台理事長坂本英紀さんからは、同時に映画上映をすると喜ばれるのではないかと嬉しい協力の申し出がありました。

こうして3月10日に、みちのく支援イベント「トマトキッチンカーがやってくる」が実現。場所は、NPO法人せんだいみやぎ子どもの丘が管理運営する仙台市宮城野区にある鶴巻児童館。近隣にある鶴巻東一丁目公園仮設住宅に入居されている方々も招かれ、当日会場は200人程の地域の皆さんの笑顔でいっぱいになりました。

一方、東京本社や仙台支社からボランティア参加

今回の震災では、企業から被災地にたくさんの支援が寄せられています。企業がNPOと連携しながら被災地の支援を行った事例をご紹介します。カゴメ（株）（以下、カゴメ）東日本大震災復興支援室担当部長横川二郎さんと、その活動をサポートする（株）エージーのプランニングディレクター鈴木みのりさんが、震災復興支援活動の連携先を求めて相談に来館したのは、今年1月のことでした。

◀ 遠くからでも目立つトマトキッチンカー

したカゴメ社員たちは、「子どもたちの笑顔に元気をもらいました」と、直接ふれあう機会が持てたことで、被災地での支援の意味を肌で感じ、継続した活動の重要性と手ごたえを得たようでした。

成長を楽しみ収穫の喜びを

徐々に被災地への支援が減る傾向にある時期。この後も地域に根ざした支援は何かを考えながら活動を展開していきたいと、次の活動として、被災した方々に土に親しむ機会をもってもらえるよう、トマトの苗を提供することになりました。

5月25日には、青葉区の川内公務員住宅仮設住宅に入居されている皆さんと30本余りの苗を植えました。トマトが真っ赤に熟す夏には、ともに収穫の喜びを味わいたいと楽しみが膨らみます。

また、5月30日、31日の両日NPO法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワークが行っている「産直広場ぐるぐる」と連携して、若林区のみなし仮設住宅の入居者や地域の方々へ食を通じた支援を行うことができました。

被災地において息の長い支援を行うには、現地の的確な情報と、実際に活動しているNPO・市民活動団体との連携が重要です。2つが出会った時大きな支援のチカラとなって被災地を力づけていくのだと感じました。（葛西淳子）

○企業情報○

カゴメ（株）東日本大震災復興支援室

○連絡先○

〒981-3298

宮城県黒川郡大和町学苑1番地1

宮城大学 震災復興産学支援センター

TEL : 022-777-8157

FAX: 022-777-8153

まだ＊これ

シニア 横丁日記

「シニア横丁」は、まだまだ、これから！50歳後半からのセカンドライフに意欲を燃やす人や情報が集まる場所。これから新しい一歩を踏み出そうとしている方は、ちょっと寄っていきませんか。

やると決めたからには とことん全力投球

子育て支援・一時預かり「わらべっこ」 事務局長 千葉 勲さん (69歳)

今回ご紹介する方は、今年4月から子育て支援・一時預かり「わらべっこ」（以下、わらべっこ）の事務局長として活躍している千葉勲さんです。わらべっこは、子どもを預けて自分の時間を持ちたい時、ちょっとリフレッシュしたいという時に利用できる子どもの一時預かりや、要望に応じて各種団体への出張託児等を実施しています。千葉さんが、どうしてわらべっこの運営に関わるようになったのか、お話を聞いてみましょう。

「わらべっこ」が果たす子育て支援

「何とか、わらべっこの活動を継続できそうです。これでまた、お母さんたちに安心して利用していただけます」と、嬉しそうに当センターに報告にいらした千葉さん。実は、わらべっこは平成20年から仙台市シルバー人材センターの事業として運営されてきましたが、平成23年度をもって事業が打ち切られることになっていたのです。

年々利用者も増え、徐々にわらべっこの存在も認知され、利用したいというお母さんたちのニーズもあるのに…。それは、臨時職員ながらこの事業担当として、わらべっこの創設から軌道にのるこれまでを支えてきた千葉さんにとって、すぐには受け入れ難いことでした。「わらべっこを必要としている人はたくさんいるはず、何か方策はないのか」わらべっこの存続の可能性を探るため動き出したのが今年の12月のことでした。

何も残さず止めるわけにはいかない

その思いを後押ししてくれたのが、わらべっこの代表佐山暢一さん。積極的にリーダーシップをとる佐山さんと、裏方に徹する千葉さんは、お互い絶好のパートナーとして協力しながら、運営体制を整えるため、スタッフの確保、資金調達にと奔走することになったのです。

特に資金調達は大変でした。しかし、無いと思っていた資金ですが、いろいろ調べてみると、ボランティア活動や市民活動を行うため必要な資金は十分用意されていることに気がついたといいます。ただ、足りないのは申請する側の提案力、いかにして自分たちの企画内容を相手に伝えるかを学び勉強を重ねたそうです。



結果的には努力した甲斐あって助成金を獲得することができ、関係各所と交渉し資金の目途もつきました。こうして、市民活動団体としてわらべっこの再生と継続が可能になったのです。「ここ数か月は、久しぶりに仕事に忙殺されたという感じですね」と言いながらも、やりがいと確かな手ごたえを感じている様子でした。

誰かの役に立ち必要とされる存在になる

わらべっこの託児スタッフは、育児経験を持つシニア世代が中心です。それぞれが若い母親たちの役に立ち、頼りにされているということを実感し、それがスタッフの生きがいにもつながっています。わらべっこの継続は、子育て中のお母さんたちを支援するだけでなく、そこで活動するシニア世代の居場所ともなっていることがうかがえます。

千葉さんの現役時代のお仕事は、小学校の教員。「退職後はテレビや映画を見たり、読書をしたりと好きなことをして、悠々自適に暮らす予定だったのになあ。まさか子育て支援団体を切り盛りするとは考えてもいなかったですよ」と、笑います。現在、街中にある貸室は、託児のスペースだけで手狭なため、事務作業は自宅でこなす毎日です。「わらべっこにやってくる子どもたちとお母さんの笑顔を見ることが、なよりの活力となっているので、体力が続くかぎり頑張ろうかと思っています」千葉さんの温かな眼差しの奥には、わらべっこの今後の展開を見据えた確固たる思いが秘められているようです。（葛西淳子）

市民活動サポートセンターからのお知らせ

ロッカー・レターケース 使用団体募集!

9月以降のロッカー・レターケース使用団体の募集を開始します。現在ご利用中の団体が9月以降に使用する場合もお申し込みが必要ですので、下記の受付期間内にお申し込みください。

- 使用期間：平成24年9月1日～平成25年8月31日
(ロッカーのみ8月30日まで)
- 対象：継続的に市民公益活動を行っている団体
(企業を除く)
- 募集数/使用料：
 - ・ロッカー(大)10台/月額1,200円 | ロッカー(中)28台/月額800円 | ロッカー(小)80台/月額400円
 - ・レターケース168個/無料
- ※ロッカー使用者は8月6日(月)の公開抽選会で決定
レターケース使用者は先着順
- 申込受付期間：平成24年7月5日(木)～23日(月)
午前9時～午後9時(日曜・祝日は午後5時まで)
- 申込方法：市民活動サポートセンターで配布する申込用紙でお申し込みください。
(ホームページからもダウンロードできます)
- 問合せ：市民活動サポートセンター
TEL：212-3010 FAX：268-4042

サポ本を読もう!



復興支援関連からハウツー本まで、市民活動・NPOに関連した図書や、活動に役立つ本がサポ本(市民活動サポートセンターの貸出図書)に加わりました。

サポセン1階図書コーナーに、新着図書のラックを設けていますので、ぜひお手にとってご覧ください。一人1回2冊まで貸出(貸出期限は2週間)も行っております。

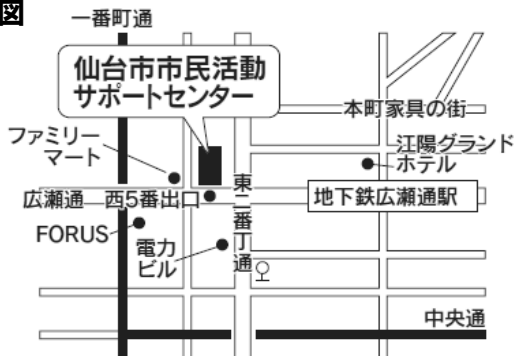
■ 仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 仙台市シニア活動支援センターとは

これまで同様、シニア世代の地域・社会参加活動を応援していきますので、お気軽にお問合せください。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でお来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停] 電力ビル前、商工会議所前

[地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

平日/午前9時～午後10時
日祝/午前9時～午後6時

■ 6月の休館日

第2水曜日 6/13
第4水曜日 6/27

■ 編集後記

今月の特集では、社会に目を向け、アクションを起こしている若者たち取材しました。映像・ネットという新しいツールを使いこなしたり、学生と同じ目線で「参加しやすい仕組み」を考えたり、若者ならではの感覚が生かされていました。このような若者たちが、これからのまちづくりを担っていくことに、頼もしさを感じます。(スタッフ一同)

発行：仙台市市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2012年6月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子